

北海道技術・家庭科教育研究会

(石本正美会長)

学び合う 本制づくりのポイント

「らしいのかわからない」という発言があった。また、50年代のベテラン技術科教師からは「今年度着任した学校は規模が小さく、技術・家庭科は1名しかいなかった」といふ。今後さらに小規模校が増えて、技術・家庭科合わせて1名体制で

〈No.25〉

伝えたい！

授業づくりの基礎・基本

中学校 技術・家庭科編 技術分野①

中、これは新採用教員のみならず、中堅教員やベテラン教員にしても関わる大きな課題である。そこで、未経験の教科を担当した場合の授業力向上について、私の経験を伝えていきたい。

ホイントークで、ネットワークで、
中堅教員やベテラン教員に
も関わる大きな課題である。
そこで、未経験の教科を担当
した場合の授業力向上について、
私の経験を伝えていきたい。
い。

（岩本正美会長）
家庭科教育研究会
のポイント
れてる。勘弁してほしい」と。
これが「学校現場における『技術・家庭科』の実情の一端である。実は私自身も50歳にして初めて免許外である家庭科の授業を担当することとなり、その授業づくりに苦労している一人である。

あらゆる人脈（ネットワーク）をもつて、
りに努めべきである。

は、生徒にとって、
効果的な授業へより活用でき
る。しながらの説明
する授業になりや
は、生徒にとつ
を維持させ、生
となる授業展開
きない。平成33
されていて、全国各地で開催さ
れる「ICTセミナー」からも、
「主体的・対
情報収集することができる。I

しながらの説明
効果的な授業へぐるに活用でき
る授業になりや
は、生徒にどつ
る。持続させ、生
とする授業展開
きない。平成33
施となる次期学
「主体的・対
」が強調され
の実現にむけ
より質の高い授
の有効な資料がそれらから得ら
れるのではないか。
全国的にICT機器の整備が
進み、授業におけるICTの活
用事例は、Web上に多く掲載
されている。全国各地で開催さ
れているICTセミナーからも
情報収集することができる。I
CT機器が整備されていない学
校が、学校予算にて整備する際

等の研究部会に所属し、年2回（春・秋）の全体研究会を実施している。そこでは公開授業を通して、指導法や日常の実践に関する様々な情報を交流し研修を深めている。

なお、Webコンテンツを活用する場合は、著作権の扱いに注意し、必要に応じてサイト管

理者に許諾を得ることや、自校生徒の特長に合わせて自分なりにアレンジを施すことが大切で、その設定につながる

ところで、有効なCTの活用は、CTの活用」が提示により、授関心を高めるこ

等の研究部会に所属し、年2回（春・秋）の全体研究会を実施している。そこでは、公開授業を通して、指導法や日常の実践に関する様々な情報を交流し研修を深めている。

なお、Webコンテンツを活用する場合は、著作権の扱いに注意し、必要に応じてサイト管理者に許諾を得ることや、自校生徒の特長に合わせて自分なりにアレンジを施すことが大切で、用する場合には「ICTの活用」が導入段階では、提示により、授業者に許諾を得ることや、自校生徒の特長に合わせて自分なりにアレンジを施すことが大切で、関心を高めることが可能となる。よるICT機器の設定につながる課題の解決に追

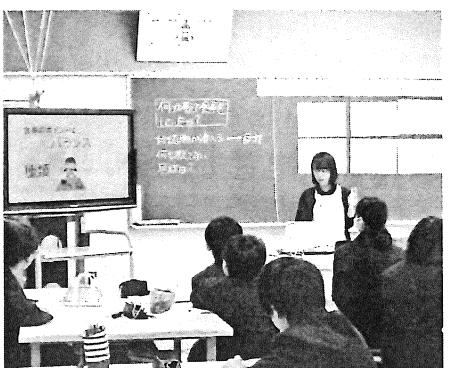
今年度の研究会は、若手教員から「パワーポイントの授業に関するワークシートは?」や、「木工作品作りの際に効果をもたらすワークシートは?」と題して、用紙を活用する授業者が、教科書やワークブックを互いに撮影し返りや相互アドバイスを行なう。例えは、「この授業では、

的なワークシートは?」など日常の授業に関する話題が出され、ベテラン教員からは、「明日資料を送ります」「近くの学

「資料を読む」邊の学
校の先生が放課後に向かえば良
いのでは」などの助言があり、


学校間の仲間意識が高まり、教科のネットワークが構築された。近隣の学校と連携した「学び合い・助け合い」は大変有効

である。ボイント2 Webハンター



培つたノウハウを若手教員に伝える

の活用は、学習現・持続可能な社会の構築に向るツールとして、生活を工夫し創造する資源である。

へ三分の一教員は、若いころから、客観的な振り、諸先輩方から指導していただけた。バイスにより、身に付けてきた教科の意義

の明確化と課題や指導方法等、授業のノウハウ化された「追求」が可等を、次代を担う若手教員に伝授する。一方で、成長を支えていく役割がある。

末等が整備され
合は、それらを 知恵を出し合い、工夫して
もに学び合う体制（ネットワー

ることで更に多くのチームによる一々のことは大変重要なことで、自身も協力していくから。(北海道技術・家庭教育研究会 参考 札幌市立前田北中学校)

活用した家庭科
巣を上げる

次回は「授業改善のポイント」を掲載します。三

北海道技術・家庭科教育研究会

(岩本正美会長)

授業改善のポイント

【教室環境整備と授業改善へのヒントとは】

技術分野の授業は、木工室やコンピュータ室などの特別教室で授業することが多い。そこを切た準備の一つである。ここで入ったままになっていたりする手立てとして挙げられている「主体的・対話的で深い学び」について考えてみたい。

ポイント1 教室環境の整備

「生徒が主体的に学ぶ」ため

伝えたい!

授業づくりの基礎・基本

中学校 技術・家庭科編 技術分野②

<No.26>

授業で使用する工具や機器の題材を設定したりしてきた。のよな授業を行った。保守・点検と教室内の清掃、机などへの破損等の確認は、できただけその日のうちに終わらせることで、特に工具の数は、必ず授業中か授業後すぐに確認するよ

うにすべきであるが、授業と授業でみんなと意見交換をするために、教室環境の工夫が大切である。何年も前の掲示物が変色したまま貼られていたり、最近使用せず今後も使う予定の機械類が置かれていたり、合、班の中で班長・工員係・材を鍛えていくことに留意する。

①今までの学習内容を振り返る。この場面で「主体的」という言葉の間の休み時間は短いので、簡単に確認できる方法の工夫が

必要となる。テーブルや班ごとに小さなトレイやケースを利用

する、「ここでは振り返る」「深く、グループ内で発表、交流し、

して、グ

ループ

内

で、

この

問題

が

育

れ

たりし、さらに見方。

なり。特に工具の数は、必ず授業後すぐに確認するよ

うことで、主体的・対話的で深

力、太陽光、バイオマスによ

るだけその日のうちに終わらせ

せるような問題解決の流れにす

で学習した新エネルギー(風

力)が豊かなものになる。

る。ただし、特に工具の数は、必ず授業後すぐに確認するよ

うことで、主体的・対話的で深

力、太陽光、バイオマス

